れんげそう
令和６年６月 28 日
福生第五小学校
学校通信第 563 号

星に願いを

校長　泉田　巧人

校庭にいる可愛いバニラ

関東地方は、６月 21 日（金）に例年より 14 日遅く梅雨入りしました。梅雨期には大雨が降り災害が発生しやすい時期です。本校では昨年度、一昨年度に東京都教育委員会の安全教育推進校の指定を受け、様々な安全について学習し、風水害についても学びました。子どもたちは、「自分の命は、自分で守る」ための行動を学んできました。御家庭においても「東京マイ・タイムライン」を活用し、風水害の際の避難について子どもたちと話し合い、準備を進めていただけると幸いに存じます。

さて、７月 19 日（金）から 21 日（日）まで、第 74 回福生七夕祭りが開催されます。福生七夕祭りの歴史をみてみると、昭和 26 年７月６日に福生駅前の中央商栄会で「ふっさ七夕まつり」が産声をあげ 70 年以上も続いています。七夕と聞くと、織姫と彦星の物語が思い浮かぶのではないでしょうか。織姫と彦星の物語は様々言い伝えがありますが一つ紹介します。

『昔あるところに、神様の娘の織姫がいました。織姫は、はた織りの仕事をしていました。彦星は、牛の世話をしていました。二人はとても働き者でした。神様はこの二人を会わせ、二人はやがて結婚しました。結婚してから二人は遊ぶことが楽しくなり、全く働かなくなってしまいました。怒った神様は、天の川をはさんで二人を引き離してしまいました。悲しみにくれた二人は泣き続けました。それを見た神様は、真面目に働いたら１年に１度だけ二人が会える機会をつくりました。それから二人は心を入れ替えて一生懸命働くようになり、１年に１度だけ七夕の日に天の川を渡って会うことが許されました。』

この七夕の日に願い事をすると、願いがとかなうと言い伝えられています。この日に願い事をするのは、「乞巧奠(きこうでん)」という中国の風習が関係しているそうです。乞巧とは、「技巧を授かるよう願う」「上達を願う」という意味だそうです。乞巧奠とは、織姫にあやかり、はた織りや裁縫の上達を願う儀式を指し、現在の七夕の「願い事をする風習」につながっていると考えられているのだそうです。

しかし、願い事は「願う」だけで本当にかなうのでしょうか。願い事とは、一つの目標と考えることもできます。この「願い（目標）」を実現するためには、考え願っているだけでなく実際に一歩を踏み出し、行動に移すことが大切です。達成するために身に付けなければならないスキルや手順を考え、努力を怠らず、失敗しても成功することをイメージして挑戦し続けることが必要だと思います。やらないこと、できていないことを他の人や環境のせいにして、自分を正当化する人もいます。きちんとやる自分も、やらない自分も、結局は自分自身が決めていることなのです。願いをかなえられるのは自分自身なのです。遊んでいるだけの方が楽しいですが、生涯において本当に楽しいのは、自己実現を果たし一生懸命に真面目に生きていくことだと思います。人は何歳になっても、この「願い」をもち続けることが大切だと思います。子どもたちには「願い（目標）」を達成する強く優しい心をもち続けてほしいと思います。教職員は日々、子どもたちの成長に願いを込めて、常に一生懸命に指導しています。さて皆さんは、何を星に願いますか。